

令和 7 年度業務実績報告書

提出日

2026 年 1 月 14 日

1. 職名・氏名 教授・佐藤秀一

2. 学位 学位 農学博士、専門分野 魚類栄養学、授与機関 九州大学、授与年 1986

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 化学Ⅰ（2 単位） 1 年次生
② 内容・ねらい 化学の基礎知識を教授し、専門科目への導入を容易にする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 化学の基礎知識をイラストや図を多く使用し、理解を容易にした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 化学Ⅱ（2 単位） 2 年次生
② 内容・ねらい 化学の基礎知識を教授し、専門科目への導入を容易にする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 化学の基礎知識をイラストや図を多く使用し、理解を容易にした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 化学実験（1 単位） 2 年次生
② 内容・ねらい 化学の基礎実験手法を教授し、専門科目への導入を容易にする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 化学の基礎実験を行い、理解を容易にした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生化学（2 単位） 2 年次生

② 内容・ねらい 生化学の基礎知識を教授し、専門科目への導入を容易にする
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 生化学の基礎知識をイラストや図を多く使用し、理解を容易にした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 飼料栄養学（2単位）3年次生
② 内容・ねらい 水生動物の栄養要求と飼料開発に関する知識の導入と理解を容易にする
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 飼料栄養学に関する知識をイラストや図を多く使用し、また課題問題を回答させるなど理解を容易にした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎演習（1単位、毎年開講）3年次生
② 内容・ねらい 卒業研究と関連する文献を講読し、その概要をスライドにまとめて口頭で発表し、その質疑応答を通じて、各研究分野における研究課題や研究手法に関する理解を深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 演習では、できるだけ学生同士でディスカッションすることで、研究で必要な議論する力を身につけてもらうよう意識した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 専門科学英語（1単位、後期）3年次生
② 内容・ねらい 卒業研究と関連する専門分野で用いられる専門科学英語について、英語での口頭発表ができるように発音を含めた表現方法を理解する
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 発音の注意点を講義し、英語の文献を音読し、理解するようにした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水産増殖学概論（2単位）・2年次生 担当コマ数：1コマ

②内容・ねらい 水産増養殖を俯瞰的に理解するために必要な種苗生産学、養魚育成学、水族栄養学、魚病学、育種学、発生工学、水産海洋情報学、水産経済学の各分野について、基本的知識と最近のトピックおよび時事的な内容について講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 パワーポイントと板書を併用し、重要項目のみを板書し、説明が早くなり授業内容が適正になるように努めている。さらに、ビデオや写真などを多用して、現場のイメージが伝わるよう実施している。参考事項や参照すべき HP などの情報を、GC にアップして事前事後学習に活かせるに工夫している。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 養殖インターンシップ I （2 単位・集中）・2 年次生
② 内容・ねらい 養殖の実現場に出向き、実際の作業を体験し、今後の進路などに役立つような現場体験を目指して行っている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 近隣の養殖・飼育・生産施設での実体験を重視し、学生自ら作業する時間する現場の選定を行っている。その体験を通して進路選考の参考になるように取りまとめ発表して議論を深めている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋生物育成学（2 単位・後期）・博士前期課程 1 年次生
② 内容・ねらい 海洋生物を育成するに当たり、評価すべき項目とその評価方法ならびに養殖対象魚種の栄養要求ならびに飼料開発の知識を理解する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 理解が深まるようにパワーポイントを用い、ビデオ等で理解を促し、演習問題を課した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8 単位）・4 年次生
② 内容・ねらい 卒業論文は、先端増養殖学教育の集大成である。3 年次までに修得した学習成果をふまえて、分属した研究室の教員との議論を通じて、社会的背景や専門分野の研究状況および研究の意義を理解した上で、課題を設定して研究に取り組む。最終的に研究成果を卒業論文発表会で口頭発表するとともに、卒業論文としてとりまとめる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 卒論研究、結果の取り纏めの指導、また発表の前には、要旨の作成やプレゼンテーションファイルの添削などを行い、各個人にプレゼンテーションの技法および作法を十分に理解できるよう運営している。
(2)その他の教育活動

内容

- ・ 東京大学農学部非常勤講師、水生動物栄養学（R7年4月～5月）
- ・ 大阪公立大学 客員教授 「持続可能な養殖用飼料開発に関する研究」

受入教員：研究推進機構 養殖場高度化推進研究センター 二瓶 泰範（工学研究科 准教授）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	
1. Nutrition and Physiology of Fish and Shellfish (編者 Vikas Kumar) 12. Minerals (S.Sugiura and S.Satoh), Elsevier, pp493-559, 2025	【 1 本】
② 学術論文 (査読あり)	
	【 0 本】
③ その他論文 (査読なし)	
1. 魚類養殖用飼料ーたんぱく質と脂質源の現在と未来 (佐藤秀一) , 食品・食品添加物研究誌、FFI ジャーナル, 230(3), 212-217, 2025	
2. 持続可能な水産養殖用飼料の開発 (佐藤秀一) , HASEGAWA LETTERS online43-4 号, https://hasegawa-letter.com/new_articles/new_articles-1375/ , 2025	【 2 本】
④ 学会発表等	
1. マサバ飼料におけるヒスチジン添加の有効性, 令和 7 年度日本水産学会中部支部大会 (2025, 11 月), 山越佑馬・水田尚志・横山芳博・細井公富・佐藤秀一	
2. マサバにおけるアメリカミズアブ由来油脂の利用性に関する研究, 令和 7 年度日本水産学会中部支部大会 (2025, 11 月), 土岐 秀・佐藤秀一・細井公富	
3. 低水温期におけるブリおよびマダイ用低魚粉飼料への摂餌誘因物質の添加効果, 令和 7 年度日本水産学会秋季大会 (2025, 9 月), 佐藤秀一・芳賀 穰・壁谷尚樹・竹本悟郎・新野洋平・堀内元貴	
4. Evaluation of egg quality and investigation of effective feed for improving egg quality for blacktip grouper, 13th Japan-Korea, Korea- Japan Joint Symposium on Aquaculture 2025(2025,11 月). K Sawada, T Amagai, R Murata1, S Satoh, K Soyano1	
5. キジハタにおける魚粉代替飼料の利用性, 令和 7 年度日本水産増殖学会大会 (2025, 11 月), 荻原豪太・渡部奈緒子・佐藤秀一・細井公富	【 5 件】
⑤ その他の公表実績	
1. 養魚飼料の現状と課題, 令和 7 年度第 1 回水産増殖懇話会講演会「我が国魚類養殖における諸問題:MEL 飼料認証との関係を中心に」(2025, 3 月), 佐藤秀一	
2. 養魚飼料の現状と課題, 第 2 5 回目 CAINES セミナー (2025, 5 月) , 佐藤秀一	
3. 養魚飼料の現状とこれから, 第 20 回 種苗生産技術交流会(2025, 8 月), 佐藤秀一	
4. 持続可能な養殖飼料について、第 3 回サステナブル産業創出研究会(2025, 12 月), 佐藤秀一	
5. 養魚用飼料の現状と課題, 日本学術会議公開シンポジウム, 沿岸養殖の現在地と持続可能な未来 ーデータで問い直す日本の養殖業ー(2026, 2 月), 佐藤秀一	【 5 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等
日本農学会 監事 (2022 年 2 月～現在に至る) 日本水産学会 監事 (2022 年 5 月～現在に至る) 世界水産学協議会 副会長 (2016 年 5 月～現在に至る) 日本水産学会国際交流委員会委員 (2021 年 3 月～現在に至る) (公財) 農学会農学教育推進委員会副委員長 (2022 年 4 月～現在に至る) (公財) 農学会農学一般分野審査委員会委員長 (2022 年 4 月～現在に至る) 日本農学アカデミー会員 (2020 年 4 月～現在に至る)

5. 地域・社会貢献活動

・日本学術会議、連携会員 (R2.10～現在に至る) ・日本技術者教育機構審査委員 (R.3.10～現在に至る) ・日本水産資源保護協会、令和 7 年度養殖衛生管理技術者養成本科専門コース研修おける講師 (R3.11～R8.1) ・科学技術振興機構(JST) A-STEP 事業専門委員 (R3.4～現在に至る) ・マリノフォーラム 21、ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実用化事業委員会委員(R1.4～現在に至る) ・小浜市サバ養殖協議会 (R4 年～現在に至る) ・京都大学フィールド科学教育研究センター (舞鶴・瀬戸) 共同利用運営委員会委員

6. 大学運営への参画

(1)補職
海洋生物資源臨海研究センター長 (令和 4 年 4 月～現在に至る)
(2)委員会・チーム活動
入試本部委員会 (令和 7 年 4 月～現在に至る) 先端増養殖科学科 2 年次クラス担任
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス、永平寺キャンパス (令和 7 年 8 月)
(4)その他、自発的活動など